

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

最近、電車に乗るたびに気になっていることがある。それは乗客のほとんどがスマホを操作することに夢中になっていることだ。(1) イヤホンで耳を塞いでいる者も少ない。彼らは完全に自己の世界に没入しており、同じ車両に乗っている他の乗客に対して全く関心がないように見える。(2) 彼らが人と関わることを極端に嫌う非社交的な人間であるというわけではない。(3) 彼らのスマホ操作の多くはインスタグラムやツイッター、ラインなどのいわゆるSNS(ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)の閲覧や書き込み、返信などのためのものだからだ。これらのSNSは他者とのつながりなくして成立しないものである。いわば社交のための道具である。(4) 彼らを人間嫌いと呼ぶことはできない。とはいえ彼らがたまたま電車で乗り合わせただけの赤の他人に関心がないということは間違いない。(5) 、彼らは既に知っている人、既に知っていることにしか関心がないのだ。もしこれが現代人に共通の特徴であるならばなんとも悲しいことである。

ア しかも    イ 言うなれば    ウ だが    エ なぜなら    オ だから

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～コから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

歴史は見方次第でどのようにも書くことができます。だから作家が歴史上の人物を小説に書く場合、その人物をどのように見るかで小説の内容も変わってきます。(6) 、源義経を書くとすれば、義経は英雄であるという見方で書いても、愚か者であるという見方で書いてもよいのです。しかも作家によって義経をどのような人物として見るかは様々



です。 (7) 源義経を誰が何度小説に書いてもよく、実際にそうされてきました。とはいえ、読者の側にもそれなりの知識というものはありますから、あまりにもでたらめな義経が出てきては読者の心はつかめません。しかし一方で、 (8) 歴史的事実と合致していても読者の求める義経像とかけ離れていては読者は不満を抱くもので、これは大変難しい問題です。最近の歴史小説やドラマは歴史的事実からかけ離れないように細心の注意が払われていますが、 (9) それによって面白みが欠けるものが多いように感じます。 (10) 歴史的事実を無視するくらいの大胆な作品が読みたくなるのは私だけでしょうか。

カ あえて

キ かえって

ク たとえば

ケ したがって

コ たとえ